



甲南第一小学校だより

# 第一っ子



令和4年5月31日

(2022年度)

第3号

甲南第一小学校

## ゆっくりと じっくりと 過ごす時間も大切に!

新年度も2ヵ月が過ぎ、前期も中盤にさしかかろうとしています。子どもたちは、新しい学年にも慣れ、日々、学習に生活に力一杯取り組んでいます。そんな子どもたちですが、そろそろいろいろな疲れが出てくる時期です。また、間もなく、気持ちも少し湿りがち?になる「梅雨」の季節もやってきます。

さて、日本では「梅雨」をどうして「ばい雨」と呼んだり「つゆ」と呼んだりするのでしょうか? 「ばい雨」については中国では六月頃の雨期が丁度梅の実の熟す頃にあたるということで、その頃の雨を「梅雨(ばい雨)」と呼び日本に伝わったという説や六月頃の雨は黴(かび・バイ)を生えやすくするというので「黴雨(ばい雨)」と呼ぶようになり語感がよくないので「黴」の代わりに「梅」という漢字に変えて呼ぶようになったという説があります。「つゆ」については六月頃の長雨で木々に露がつくことから「露(つゆ)」が派生して「梅雨(ばい雨)」を「梅雨(つゆ)」とも呼ぶようになったという説や六月頃の雨で梅が成熟し実が潰れることから「潰ゆ(つゆ)」が派生して「梅雨(ばい雨)」を「梅雨(つゆ)」とも呼ぶようになったという説があります。

また、「梅雨」にまつわる言葉として、「菜種梅雨」「走り梅雨」「梅雨の中休み」があることはよく知られていますが、その他にも「五月雨」や「五月晴れ」があることもご存知でしょうか? これらの言葉は文字通り五月のことで六月の「梅雨」とは関係ない言葉だと「思いこみ」がちですが、実は現在の六月は旧暦では五月にあたり、「梅雨」というのは昔の暦の上では五月頃に降る雨のことを指していました。もうお気づきだと思いますが、「五月雨(梅雨の時に続く雨)」や

「五月晴れ(梅雨の中休みの晴れ間)」という昔から使われている言葉は「梅雨」の時期の天気の様子を表す言葉だったのです。「梅雨」だけでなくその他のことについてもよくよく調べてみるとこれまでの「思いこみ」が実はそうではなかったということがよくあります。

「梅雨」やコロナで思うように外出できないこれからの時期、お家でゆっくりと疲れを癒したり、今まで気になっていたことをじっくり調べてみたりするのに良い季節かもしれませんね。



甲南第一小学校 校長 松山 辰也

### もしもの時に備えて!

6月といえば「梅雨」。間もなく雨の季節を迎えます。近年の梅雨は、大雨になることが多く、河川や用水路の急な増水、地盤の緩みによる土砂くずれ等もたびたび起こるようになってきました。それだけ危険な状況が増えてきていると言えます。本校の校区内にも危険と思われる場所が点在しており、注意が必要です。

ご家庭でも通学路や自宅周辺の危険箇所の確認、緊急時の行動の仕方や避難場所等について話題にしていたいただき、事故を未然に防ぐための対応と、もしもの時の備えをよろしくお願いたします。



私の朝一番の仕事は、登

校してくる子どもたちを迎えに行くことです。よほどの用事がない限り、できるだけ遠くに歩いて迎えに行くようにしています。(地区ごとにローテーションして) 途中、たくさんのスクールガードさんが、子どもたちを見守ってくださっています。そのおかげで子どもたちも安全に登校することができています。本当にありがたいことです。そんなスクールガードさんや横断歩道で止まっていた車ドライバーさんに、「おはよう。」や「ありがとう。」のあいさつができる第一小の子どもたち。本当に素敵な子どもたちだと思います。これからもあいさつを大切にできる第一っ子であってほしいと思います。



「あいさつ」を大切にする第一っ子

ひとみ輝く第一っ子

よく学び・心豊かに・健やかに